

ウ 国立中央青年の家の日程

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9月4日	話し合い	レクリエーション技術			自主研修 他県との交歓会、話し合い	(兵庫県) スポーツ、講義				夕食 入浴			キャンドル サービス (太田,春日,平賀)		自由 研修
5日	研修のまとめ	話し合い			野外活動(兵庫,福島,熊本の各県) 富士五湖または長尾峠					〃			他県との交歓会 (香川県)		〃
6日	講義と話し合い	室内ゲーム			昼	見学	国立中央青年の家の施設設備			〃			映画鑑賞		〃
7日	講義 (青年の家の先生)	研究協議 (前講義をもとに)			食	スポーツ (所員)		講義 話し合い		〃			現地出発準備研修		〃
8日	研修地に出発														

(5) 効果 国立中央青年の家における研修により青年としての自覚を高めるとともに研修生のチームワークをつくることができた。現地にあっては企業的な経営・合理的な管理法等、まことに教えられるものが多く、研修生はそれぞれの体験を生かし、今後地域の産業振興に大いに貢献するものと思う。

#### 4 少年教育(校外補導)指導者研究会

(1)趣旨 社会教育における少年教育の重要性にかんがみ、こども会等少年団体育成上必要な諸問題について研究協議し、団体活動の助長をはかるとともに少年教育の振興をはかる。

(2) 期日 36・11・21～22

(3) 会場 信夫郡飯坂町立飯坂小学校

(4) 講師 文部省社会教育官 二宮 徳馬

(5) 参加者 こども会、少年団体指導者、PTA、婦人会員、青少年健全育成推進員 250名

(6) 内容

① 講義 校外生活指導上の諸問題

② 討議

ア 第1分科会(職員)

- 学校における校外補導の組織と機構
- 学校における児童生徒の生活指導の実際

イ 第2分科会(PTA)

- PTAにおける校外補導の組織と活動
- 学校の校外補導との効果的な調整

ウ 第3分科会(育成会)

- 補導会等、自主的校外補導機関の組織
- 学校、PTAとの関連

エ 全体討議 児童の校外生活をどのように指導したらよいか。

③ レクリエーション

(7) 効果 参加者はいずれも実践家であり、こども会のリーダーであったため内容の豊富な会に終始し、今

後の校外補導に益するところが大きく、また少年教育に対する社会的関心もたかめられた。

#### 5 県下青年学級生大会

(1) 趣旨 県下市町村青年学級生代表が一堂に会し、共同生活を通じて研修、学習発表、交歓および当面する諸問題について研究協議を行ない、本県青年学級の振興に資する。

(2) 期日 36・12・8～9

(3) 会場 信夫郡飯坂町 県婦人会館

(4) 講師 文部省社会教育課長補佐 日高 幸男

(5) 参加者 市町村教育委員会より推せんされた  
学級生 164名  
公民館主事 34名

(6) 内容

① 講義 青年学級生としての心構えと学習のあり方

② 研究協議(分科会)

ア 私たちは青年学級で学んだことを、生活の中で、このように生かしている。

イ 私たちは青年学級生としての自覚と一般の理解を深めるため、このようにしている。

ウ 私たちは学習活動を進めるうえに、こんなことが障害となっている。

エ 私たちは今後の青年学級に、こんなことを望みたい。

③ パネル、デスカッション学習活動をたかめるためには、どうしたらよいか。(学級生代表)

(7) 効果 本大会も2年目を迎え、学級生による自主的運営も円滑に行なわれた。特に日高講師の講演は学級生に大きな感銘をあたえ、学習意欲をたかめると共に青年学級振興に役立った。